

授業科目名	経済学入門（経）	担当教員名	長濱 幸一 / 佐藤 佑一			
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次
授業概要	<p>「経済学を学ぶ入り口」 本講義は経済学部に入学した1年生を主な対象として、今後、本格的な経済学を学ぶために必要な基礎的な知識を提供する。 経済学がどのような問題に关心を持ってきたか、現代の経済社会がどのように形成されてきたか、そしてミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な把握などが主な内容となる。</p> <p>なお本講義は1~10回を長濱が、11~15回を佐藤が担当する。そのため、それぞれの担当者の初回の講義で説明を行うので、注意すること。</p>					
到達目標	<p>経済学に興味関心を持つことができる（意欲・姿勢） 経済学がどのような問題に关心を持ってきたか理解できる（知識） 現代の経済社会が形成されたプロセスを理解できる（知識） 理論経済学の基礎となる考え方を身に着ける（知識） 自分の考えや知識を的確に表現できる（技能）</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考			
	平常点					
	小テスト					
	レポート					
	定期試験					
	その他		本講義は2名の教員が担当する。採点割合は長濱(60%)、佐藤(40%)とする。それぞれの担当教員の評価方法については、各担当者が最初の講義で説明を行う。			
事前・事後学習	事前に配布する講義資料を利用して予習しておくことが望ましい。授業後は講義資料を利用して自分なりに整理することで、経済学に関する基礎的知識を涵養できる。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『長濱…特に指定しない』					
	『はじめて学ぶミクロ経済学・マクロ経済学』	池田 剛士、土橋 俊寛（編集）、岡田	税務経理協会	2023年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『授業内で隨時紹介する』					
備考	本講義の資料や講義の案内はGoogle classroomを通じて行う。なお2名の教員が担当するため、学期の途中でClassroomの切り替えなどが発生する可能性がある。またシラバスの授業内容が変更される場合もある。その場合は授業中に説明する。					

授業の計画

1	ガイダンスおよび経済学の基本的な思考法	経済学がどのような思考法を好むのか、それを学ぶことにどんな意味があるのかを考える。
2	経済学の問題関心	経済学がどのような問題関心(分配・価値)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。
3	経済学の問題関心	経済学がどのような問題関心(生存・企業)を持ってきたかを、主要な経済学者の所説を整理しつつ考える。
4	戦後世界経済史	戦後から1970年代までの先進国経済を中心に取り扱う。現在の経済社会を学んでいく基礎知識を獲得する。
5	戦後世界経済史	戦後から1970年代までの途上国経済・社会主義諸国の歩みを考察する。
6	戦後世界経済史	1980年代以降のグローバル化現象について考える。
7	戦後日本経済史	戦後から高度成長期の日本経済について検討する。
8	戦後日本経済史	1980年代以降の安定成長期の日本経済について検討する。
9	戦後日本経済史	バブル崩壊後の日本経済について検討する。
10	中間試験	ここまで学んだ内容について試験を実施する。
11	ミクロ経済入門	経済学の考え方について学ぶ。経済の需要・供給について考える。
12	ミクロ経済入門	比較優位・貿易について考える。
13	マクロ経済入門	GDPについて考える。マクロ経済学の基礎は何か考える。
14	マクロ経済入門	雇用など景気を反映した様々な指標について考える。
15	マクロ経済入門	経済成長とは何かについて。歴史的な枠組みも考慮しつつ簡単に考える。

授業科目名	経済数学 1組	担当教員名	野津 隆臣			
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次

授業概要	<p>本科目では「経済学に必要な数学」を学ぶ。経済学の授業を理解するため、あるいは経済学の文献を独力で読み進めるために知っておくとよい数学のあれこれ（定理や公式を含む）を学ぶ。</p> <p>中高の数学の復習を交えながら進める。中高の数学の復習は、数学好きにとっては物足りなく感じるかもしれない。しかし、「定義の理解」や「定理や公式の導出方法の理解」、そしてそれらの数学をどのように経済学に応用するかを併せて学ぶことで、数学好きにとっても楽しんで学習を進められる授業構成したい。</p>																						
到達目標	<p>経済学部の経済学科目の授業内容を理解するために必要な数学を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1次関数のグラフを描くことができて、連立方程式の解との対応を直観的に理解できる。 指数や対数が経済学でどのように用いられるか理解し、それらの計算ができる。 微分の計算ができる。 微分を用いて経済学の最適化問題を解ける。 																						
評価の方法と基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>割合(%)</th> <th>評価基準・その他備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平常点</td> <td>30</td> <td>授業時間に練習問題を行う</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td>70</td> <td>定期試験は講義内容の理解を問う問題を出題する</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	平常点	30	授業時間に練習問題を行う	小テスト			レポート			定期試験	70	定期試験は講義内容の理解を問う問題を出題する	その他		
評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考																					
平常点	30	授業時間に練習問題を行う																					
小テスト																							
レポート																							
定期試験	70	定期試験は講義内容の理解を問う問題を出題する																					
その他																							
事前・事後学習	<p>毎回の授業の復習として、4時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。それをふまえて練習問題（授業中に指示される）などを解くこと。</p>																						
事前受講を推奨する科目																							
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>教科書は使用しない</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書籍名	著者	出版社	出版年		教科書は使用しない												
書籍名	著者	出版社	出版年																				
	教科書は使用しない																						
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書籍名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>出版年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					書籍名	著者	出版社	出版年														
書籍名	著者	出版社	出版年																				
備考	<p>教科書は指定せず講義スライドを用いて授業を進める。掘り下げて勉強したい人に対して、おすすめの参考書等を別途教示する。</p>																						

授業の計画

1	イントロダクション	事前準備として、授業で必須となる基本的な計算について確認する
2	グラフの読み方	需要と供給のグラフを用いてグラフの読み方を学ぶ
3	1次関数	1次関数と1次関数のグラフを学ぶ
4	連立方程式	直線の交点と連立方程式の解が一致することを学ぶ
5	指数法則	指数法則を理解する
6	対数法則	対数法則を理解する
7	単利と複利	指数法則、対数法則を復習し、複利計算をする
8	投資・貯蓄	指数法則、対数法則を復習し、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
9	数列	数列について学び、貯蓄・投資の考え方を学ぶ
10	微分の定義	微分の定義を学び、定義に従って微分をする
11	微分の計算	微分の意味を知り、べき関数を微分できるようになる
12	最適化問題（1）	微分をつかって効用最大化問題などを解く
13	最適化問題（2）	微分をつかって効用最大化問題などを解く
14	微分の計算の応用	微分計算をする際に便利な公式を理解する
15	全体のまとめ	全体のまとめを行う

授業科目名	日本経済論 1組	担当教員名	川波 洋一
科目ナンバリング		開講学期	春学期

授業概要	本講義は、主として戦後の日本経済の変遷をたどりながら、わが国経済が抱えている問題、政策的な特徴、世界経済におけるポジション、これから日本の日本経済について考える。大学に入学して最初に聞く講義であるという点に鑑み、できるだけ経済学への誘いとなるように平易に講義を進める。その際、物価、インフレ・デフレ、景気循環、不況や好況、経済成長、財政政策や金融政策などの経済政策、雇用や社会保障、産業構造や日本型経営、アジア経済や世界経済との関連、日本経済の未来など、基本的な問題についての知識が深められるようになることが目標である。経済学においては、専門的な用語を使うことがあるが、じっさいはわれわれの身の回りで起こっている身近な問題であることを実感してほしい。そうすることによって、受講者は、日本や世界で現実に生起するさまざまな経済問題に対する関心を持つようになることが大切である。受講者には、日本や世界で起こっている経済現象に目を向ける意味で、日々新聞に目を通すことなどを薦めたい。			
到達目標	<p>本講義の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞や雑誌等の媒体を通じて経済現象を観察し、関心を持つようになること。 ・経済学の用語に慣れ、日常的な学習において使えるようになること。 ・大戦後の日本経済の大まかな流れと現時点において日本経済が抱える問題を把握すること。 ・世界経済のなかでの日本経済の位置付けや他の国々との関係について説明できるようになる。 ・日本経済の将来について展望を持ち、他の人に語れるようになること。 			
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	
	平常点			
	小テスト			
	レポート			
	定期試験	100	講義の内容に関する問題について記述式にて解答。	
	その他			
事前・事後学習	指定するテキスト参考書について事前に目を通し、予習をしておくこと。授業の資料については、事前にアップするので、目を通しておくこと。また、日々起こっている経済現象に关心を持つためには、『日本経済新聞』をはじめとする新聞や雑誌（エコノミスト誌や週刊東洋経済など）に目を通し、経済現象の観察をすること。経済学を学ぶものは、日々生起する経済現象を観察する態度を身につけることが大切である。			
事前受講を推奨する科目	経済学入門			
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代日本経済』	橋本寿朗他著	有斐閣	2019年
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『現代日本金融論(新版) 第II部』	川波洋一・上川孝夫 編著	有斐閣	2016年
	『最新日本経済入門(第6版)』	小峰隆夫・村田啓子 著	日本評論社	2020年
備考				

授業の計画

授業の計画	
1	日本経済論では何を学ぶのか？
2	現代の日本経済を見る目
3	戦後の日本経済の歩み
4	日本の高度経済成長
5	成長を支えた仕組み
6	日本経済の転機
7	赤字国債の発行と日本企業の国際競争力
8	バブルの形成と崩壊
9	グローバル化のなかの日本経済
10	長期停滞のなかの日本経済
11	日本企業の海外進出
12	日本型システムの転換
13	アベノミクスの実験
14	グローバル経済の変曲点と日本経済
15	日本経済の未来

授業科目名	ミクロ経済学（経）	担当教員名	野津 隆臣									
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生					
授業概要	<p>ミクロ経済学に関する基礎的な知識、考え方を学ぶ。ものをつくり（生産）、つくったものを売買を通して他者とやりとりし（交換）、つかう・楽しむ（消費）、そんな世の中に私たち生きている。生産、交換、消費のプロセスにおいて、売買の当事者たちの行動に注目して、ミクロ経済学ではどのように考えるか理解する。さらに、さまざまなものの価格と取引量の変化を同じ原理で説明できることを学ぶ。</p> <p>ミクロ経済学の対象は広く、15回の授業で網羅することができない。そこで上記内容と併せて、担当教員が専門的に勉強している領域を紹介することで補足したい。</p>											
到達目標	<p>身のまわりの事象をミクロ経済学の専門用語にあてはめて考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完全競争市場において市場参加者が価格受容者になる理由を説明できる。 ・「需要量」と「需要」、「供給量」と「供給」を適切につかいわけられる。 ・現実の経済現象における様々な財・サービスの価格と取引量の変化を、需要曲線と供給曲線を用いて説明できる。 											
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考									
	平常点	30	ミニットペーパー									
	小テスト											
	レポート											
	定期試験	70										
	その他											
事前・事後学習	<p>毎回の授業の予習として2時間以上をかけて講義資料を参照すること。</p> <p>毎回の授業の復習として2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。また、授業で提示される問い合わせを検討すること。</p>											
事前受講を推奨する科目												
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年							
			教科書は使用しない									
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年							
	『ミクロ経済学の第一歩』		安藤至大	有斐閣	2021							
	『マンキュー入門経済学』		N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019							
備考	教科書は指定せず、講義スライドを用いて授業を進める											

授業の計画

1	イントロダクション	経済学の専門用語（トレードオフ、機会費用、インセンティブ等）を用いて、身近な事象を表現してみる。
2	財、サービス、価格	価格とは何か身近な財・サービスで考える
3	価格受容者の想定と需要	価格受容者について学ぶ。完全競争市場では全買い手が価格受容者になることを学ぶ。
4	需要曲線と需要の法則	価格受容者としての買い手の行動の性質を考える
5	需要量と需要	「需要量」と「需要」の違いを学ぶ
6	価格弾力性	価格弾力性について学ぶ
7	需要の変化、需要曲線のシフト	身近な事象を通じて「需要量」の変化や、「需要」の変化について学ぶ。需要の変化と需要曲線のシフトを関連づける。
8	価格受容者の想定と供給	完全競争市場では全売り手が価格受容者になることを学ぶ
9	供給曲線と供給の法則	価格受容者としての売り手の行動の性質を考える
10	供給量と供給	「供給量」と「供給」の違いを学ぶ
11	価格弾力性	価格弾力性について学ぶ
12	供給の変化、供給曲線のシフト	身近な事象を通じて「供給量」の変化や、「供給」の変化について学ぶ。供給の変化と供給曲線のシフトを関連づける。
13	均衡点	需要のグラフと供給のグラフと一緒に描き、様々な価格下で市場参加者の行動を考える
14	曲線のシフトと均衡点の変化	需要曲線や供給曲線がシフトするとき、価格や取引量がどうなるかを考える
15	需要と供給で解く経済問題	身近な事象を通じて、需要と供給のグラフのつかい方に慣れる

授業科目名	マクロ経済学（経）	担当教員名	磯谷 明徳
科目ナンバリング		開講学期	秋学期

授業概要	<p>マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする経済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、経済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、マクロ経済学の基本的な概念や考え方を理解することに主眼を置き、「なぜマクロ経済学は必要か」から始めて、一つのストーリーとしてマクロ経済学という学問を理解できるような形で講義する。</p> <p>なお、この「マクロ経済学」では、マクロ経済学という学問全体の6割程度の内容が講義される。残りの4割程度については、「マクロ経済学（2年次春学期）」で講義されるのを注意して欲しい。</p> <p>上で記述のように、マクロ経済学は2年次春学期に開講される。マクロ経済学に統一して、マクロ経済学を連続して履修することを強く推奨する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マクロ経済学の基本的な概念を理解する。 現実のマクロ経済の動向をマクロ経済学の基礎的な知識と考え方を用いて理解することに关心を持つようになり、今後のより専門的な経済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。 マクロ経済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする経済ニュースに直結する経済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。 			
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考	
	平常点	30	ミニッツペーパーの提出	
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定	
	レポート			
	定期試験	50	期末試験	
	その他			
事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。			
事前受講を推奨する科目				
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
備考	小テストを複数回行う予定である。小テストの実施と合わせて、解答とその解説を行うので、講義スケジュールに変更が生じる場合がある。このことを予め了解願いたい。			

授業の計画

1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	なぜマクロ経済学は必要か	ミクロ経済学とは別個に、なぜマクロ経済学という学問分野が存在するのかについて説明する。
3	なぜマクロ経済学は必要か	第2回講義の続き
4	国民所得の測定	GDPとは何かなど、国民所得統計について説明する。
5	国民所得の決定 -1	消費関数と45度線分析（前編）
6	国民所得の決定 -2	消費関数と45度線分析（後編）
7	国民所得の決定 -1	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（前編）
8	国民所得の決定 -2	45度線分析とマクロ経済政策の基礎（後編）
9	国民所得の決定 -1	乗数理論（前編）
10	国民所得の決定 -2	乗数理論（後編）
11	国民所得の決定 -1	投資関数：投資と利子（前編）
12	国民所得の決定 -2	投資関数：投資と利子（後編）
13	国民所得の決定 -1	利子と貨幣（前編）
14	国民所得の決定 -2	利子と貨幣（後編）
15	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析

授業科目名	経済原論（経）	担当教員名	関野 秀明					
科目ナンバリング			開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次	1年生
授業概要	この講義のねらいは、今、私たちが暮らしている社会の基本システムである「資本主義」が私たちを取り巻くさまざまな人間関係にいかなる肯定的、否定的影響を与えてきたかについて理論的に考えることです。なぜ人間が作り出した「貨幣」が人間を支配するようになったのか、なぜ人類史上空前の豊かな生産力を実現した「資本主義」が戦争も貧困も解決できないのか、なぜ中高年のリストラ・失業、若者の就職難と働きすぎ・過労死といった問題が同時に起こるのか、といった現実のシリアな問題に取り組んで欲しいのです。							
到達目標	貨幣のもつ魔力の科学的根拠を理解する 剩余価値・利潤が働く人からの搾取で成り立つことを理解する 成果主義賃金が「頑張るほど奪われる賃金制度」であることを理解する 資本の蓄積と貧困の蓄積は表裏一体であることを理解する 利潤のための経済が過剰な生産と制限された消費を生み停滞に至ることを理解する							
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考					
	平常点							
	小テスト							
	レポート							
	定期試験	100						
	その他							
事前・事後学習	毎回の授業は当日配布する「講義レジュメ」を用いる。そのうえで、月刊『経済』編集部編『変革の時代と資本論 マルクスのすすめー』、とくに第7章、関野秀明「マルクスの剩余価値理論」を読むことは、予習、復習、両方に役立つ。							
事前受講を推奨する科目	経済学入門							
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年			
	『教科書は使用しない』							
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年			
	『新版資本論』		カール・マルクス	新日本出版社	2020年			
	『変革の時代と資本論』		月刊経済編集部編	新日本出版社	2017年			
	『経済学辞典』			大月書店				
備考	対面授業、対面定期試験を予定している。							

授業の計画

1	資本論の経済学とは何か	歴史研究、法則性研究、発生論的・弁証法的方法、階級性
2	商品論1	商品と労働の二重性
3	商品論2	価値形態論
4	商品論3	物神性論
5	商品論4 貨幣論1	交換過程論 貨幣の価値尺度
6	貨幣論2	流通手段 蓄蔵貨幣 支払手段 世界貨幣
7	剩余価値論1	貨幣の資本への転化
8	剩余価値論2	生産過程 絶対的剩余価値論
9	剩余価値論3	相対的剩余価値・特別剩余価値論
10	賃金論1	労働の価値と労働力の価値
11	賃金論2	時間賃金制度
12	賃金論3	出来高賃金制度
13	資本蓄積論1	所有法則の転換
14	資本蓄積論2	相対的過剰人口
15	資本蓄積論3	資本と貧困の蓄積 資本主義の歴史的傾向

授業科目名	国際経済学入門（経・公）	担当教員名	猿渡 剛			
科目ナンバリング		開講学期	秋学期	単位数	2単位	配当年次

授業概要	<p>この授業は国際経済・グローバルビジネスの入門的内容を扱います。国際経済やグローバルビジネスに関心を持つ学生が理論と実際について基礎から学べるようを目指していきます。</p> <p>授業ではまず、国際経済・グローバルビジネスを巡る環境について解説します。グローバリゼーションの歴史的経緯、グローバリゼーションを巡る課題や議論について説明します。次に、国際経済・グローバルビジネスの枠組み、具体的には保護主義化が強まっている最近の傾向を踏まえ、保護政策と自由貿易の論点のほか、世界貿易機関（WTO）の役割と課題についてみていきます。最後に、市場と経営資源を見据えた企業戦略について考察・分析するために有用なフレームワークを時間が許す限り紹介します。</p>					
到達目標	<p>国際経済・グローバルビジネスを巡る最近のトピックスを把握する。国際経済・グローバルビジネスを後方から支える制度的枠組みを理解する。さまざまな市場参入モデルの特徴や留意点を理解する。~を通じて、国際経済・グローバルビジネスの基礎について理解し、適切な企業戦略について自ら考え、議論することができるようになる。</p>					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	50	授業中にレポートやミニツッペーパー等を課します。			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	50	空欄補充問題と論述問題で構成される期末試験があります。			
	その他					
事前・事後学習	事後学習として資料や動画に再度目を通し、授業内容を各自整理しておいてください。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『グローバルビジネスの流儀』	池下譲治	晃洋書房	2023年		
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
備考	PPTスライドまたは板書によって授業を進めていきます。					

授業の計画

授業の計画	
1	イントロダクション
	授業概要、授業の進め方、評価の方法と基準
2	グローバリゼーション（1）
	グローバリゼーションとは何か、グローバリゼーションの現在・過去・未来
3	グローバリゼーション（2）
	グローバル化を巡る議論
4	通商政策とWTO（1）
	世界貿易の動向と分析、保護主義の台頭
5	通商政策とWTO（2）
	関税、保護政策 VS 自由貿易の論点
6	通商政策とWTO（3）
	世界貿易機関（WTO）の役割と課題
7	海外直接投資の動向・理論・政策（1）
	グローバリゼーションと海外直接投資
8	海外直接投資の動向・理論・政策（2）
	海外直接投資の主要理論
9	海外直接投資の動向・理論・政策（3）
	海外直接投資の効果とコスト
10	グローバル市場への参入戦略（1）
	参入市場の決定、グローバル市場への参入
11	グローバル市場への参入戦略（2）
	主な参入モデル、撤退戦略
12	グローバル・マーケティング（1）
	4つの基本戦略と組織構造
13	グローバル・マーケティング（2）
	パールミュッターのE P R G プロファイル、グローバル市場のセグメンテーション
14	グローバル・マーケティング（3）
	マーケティングプログラムの決定（4 P 4 C 4 A）、カントリー・オブ・オリジン効果
15	まとめ
	授業の振り返り、期末試験についての説明

授業科目名	マクロ経済学	担当教員名	磯谷 明徳
科目ナンバリング		開講学期	春学期

授業概要	<p>マクロ経済学は、経済を巨視的にとらえ、経済全体の性質について考えようとする絏済学の分野である。マクロ経済学は、景気、雇用、物価、通貨、為替など、絏済全体に関わる問題を対象にする。本講義では、「マクロ絏済学」では取り扱わなかつた政府の役割や外国との貿易を考慮に入れた議論と解説が行われ、マクロ絏済学と合わせて、一つのストーリーとしてマクロ絏済学という学問の全体像が明らかなるような形での講義が行われる。</p> <p>なお、この講義は、1年次秋学期に開講された「マクロ絏済学」から連続した講義である。したがって「マクロ絏済学」の講義内容を前提として本講義「マクロ絏済学」の授業計画が立てられている。この点を、本講義の履修に際してはくれぐれも注意してもらいたい。（要するに、1年次での「マクロ絏済学」を履修済みであることが望ましい。）</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マクロ絏済学の基本的な概念を理解する。 現実のマクロ絏済の動向をマクロ絏済学の基礎的な知識と考え方を用いて理解することに关心を持つようになり、今後のより専門的な絏済学の学習の基礎的な素養を習得することを目標とする。 マクロ絏済学の基礎知識を身につけることで、日ごろ見聞きする絏済ニュースに直結する絏済現象や政策について、自分なりの判断や評価ができるようになる。 			
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考	
	平常点	30	ミニッツペーパーの提出	
	小テスト	20	理解度確認テスト。複数回実施予定。	
	レポート			
	定期試験	50	期末試験	
	その他			
事前・事後学習	事前学習として、前回の講義内容を復習しておくこと。毎回の講義に対して、ミニッツペーパーの提出が必須なので、講義内容への疑問点などを事後学習として整理すること。			
事前受講を推奨する科目	マクロ絏済学			
	ミクロ絏済学			
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年
	『教科書は使用しない。』			
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年
備考	小テストを複数回行う予定であり、解答とその解説を行うので、講義スケジュールの変更が生じる場合がある。このことを予め了解願いたい。			

授業の計画

授業の計画		
1	授業ガイダンス	講義の進め方、成績評価の方法・基準などについて説明する。
2	IS-LM分析	ケインズ体系とIS-LM分析についての復習
3	IS-LM分析	IS曲線とLM曲線の導出
4	IS-LM分析とマクロ経済政策	マクロ経済の安定性
5	IS-LM分析とマクロ経済政策	マクロ経済政策の再検討
6	オープンマクロ経済学の基礎	国際収支統計と為替レート決定の理論
7	オープンマクロ経済学の基礎	マンデル=フレミングモデル
8	経済成長論	ハロッド・ドーマーモデル（前編）
9	経済成長論	ハロッド・ドーマーモデル（後編）
10	経済成長論	ソローモデル（前編）
11	経済成長論	ソローモデル（後編）
12	インフレーションとデフレーション	物価指数と貨幣数量説
13	インフレーションとデフレーション	ケインズ体系におけるインフレ・デフレの説明
14	マクロ経済学と所得分配	国民所得と所得分配（カレツキ・モデル）
15	マクロ経済学と所得分配	経済成長と所得分配（カルドア・モデル、パシネットィ・モデル）

授業科目名	ミクロ経済学	担当教員名	野津 隆臣				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	<p>ミクロ経済学の基礎的な知識・考え方を学ぶ。特に、自己の幸せ追求と豊かな社会の構築がどこまで両立するかについて学ぶ。</p> <p>私たちは、ものの生産、交換（売買）、消費が行われている世の中で生活している。ミクロ経済学では、売買の当事者たちが自らの幸せを第一に考えるときの行動について学んだ。では、彼らの取引は世の中的にどう評価することができるだろうか。果たしてよいものだろうか。よいにせよ悪いにせよその善悪について、ミクロ経済学ではどのような考え方をするのだろうか。これらについて学んでいく。ミクロ経済学の内容について復習を交えながら進める。</p> <p>ミクロ経済学の対象は広く、15回の授業で網羅することができない。そこで上記内容と併せて、担当教員が専門的に勉強している領域を紹介することで補足したい。</p>					
到達目標	<p>身のまわりの事象をミクロ経済学の専門用語にあてはめて考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限界支払用意について理解する。消費者の意思決定問題について理解する。個別需要曲線、市場需要曲線を導出できる。 ・限界費用について理解する。企業（生産者）の利潤最大化問題について理解する。個別供給曲線、市場供給曲線を導出できる。 ・均衡点では総余剰が最大になることを説明できる。 					
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考			
	平常点	30	ミニットペーパー			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	70				
	その他					
事前・事後学習	<p>毎回の授業の予習として、2時間以上をかけて講義資料を参照すること。</p> <p>毎回の授業の復習として、2時間以上をかけて、その授業で重要と思った点を中心にノートに整理し、内容を検討すること。また、授業で提示される問いかけを検討すること。</p>					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
		教科書は使用しない				
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『ミクロ経済学の第一歩』	安藤至大	有斐閣	2021		
	『マンキュー入門経済学』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	2019		
備考	教科書は指定せず、授業は講義スライドを用いて進める。					

授業の計画

1	イントロダクション	経済学の専門用語（トレードオフ、機会費用、インセンティブ等）を用いて、身近な事象を表現してみる
2	事前知識の確認	「需要量」や「需要」、「供給量」や「供給」等の用語を確認する。グラフの読み方を確認する。
3	限界支払用意	限界支払用意について知る。消費者の意思決定について考える。
4	正味便益と個別需要曲線	消費者ごとの需要曲線を描く。取引から消費者が得る「おトク感」を計算する。
5	市場需要曲線、消費者余剰	消費者全体の需要曲線を描く。消費者全体のおトク感を計算する。
6	生産と生産要素	生産要素の投入で生産物が得られることについて考える
7	費用と利潤	生産者にとっての費用と利潤について考える
8	供給量の決定、個別供給曲線	生産者ごとの供給曲線を描く。取引から生産者が得るおトク感を計算する。
9	市場供給曲線、生産者余剰	生産者全体の供給曲線を描く。生産者全体のおトク感を計算する。
10	均衡点と総余剰	需要と供給のグラフを同時に描いて市場全体のおトク感を計算する
11	均衡点における総余剰最大化	均衡点において総余剰が最大化されることを確認する
12	さまざまな資源配分と総余剰最大化の意義	数多くの資源配分のなかで市場経済は悪くないことを知る
13	余剰で考える経済問題（1）	身近な事象を通じて余剰の考え方慣れる
14	余剰で考える経済問題（2）	市場介入の影響について考える
15	公共政策とミクロ経済学	ミクロ経済学が公共政策にどのように応用されるかを議論する

授業科目名	経済原論	担当教員名	関野 秀明					
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生	
授業概要	<p>90年代後半以降の「構造改革」、その後のアベノミクスとそれを継承する政治の下で深刻化する貧困と格差、そして拡大する戦争準備の危機を、『資本論』第一部資金論、資本蓄積論および第二部第一草稿、第三部商業信用論、銀行信用論や『57-58年草稿』の恐慌論に立ち返り解明します。</p> <p>アベノミクス「三本の矢」の相互促進的関係、アベノミクスの失敗と金融バブル誘導政策の関係、成長戦略の「株価・株主資本主義」的歪みを、『資本論』第二部、第三部の「バブルの論理」「資本の過多と過剰生産の相互促進論」「資本の物神性論」などに立ち返り解明します。</p> <p>2008年に世界資本主義を揺るがした「リーマン・ショック」、その原因である「住宅関連バブル」を「史上最高に発達した『バブルの論理』」として解明します。</p>							
到達目標	<p>「ブラック企業」「社会保障へのバッシング」「株価・株主資本主義」「グローバル化と安全保障政策の転換」などを、統計的事実から理解すること。</p> <p>量的金融緩和が大企業減税や労働規制緩和、社会保障の商品化、貿易、投資自由化と結合し株式バブルを誘導する、政策の相互作用を理解すること。</p> <p>アベノミクス、成長戦略の本質、中央銀行信用バブルの論理をマルクス『資本論』に立ち返り理解すること。</p>							
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考					
	平常点							
	小テスト							
	レポート							
	定期試験	100						
	その他		定期試験実施不可の場合別途指示					
事前・事後学習	毎回の授業は「講義資料」を配布し進める。その講義について、参考書、関野秀明『金融危機と恐慌 資本論で考える現代資本主義』新日本出版社、2018年の当該箇所を読むことが予習、復習ともに役に立つ。授業、予習、復習、試験勉強、定期試験の全てを、授業で配布する「講義資料」と上記参考書を使って行う。							
事前受講を推奨する科目	経済原論							
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年			
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年			
	『金融危機と恐慌』		関野秀明	新日本出版社	2018年			
備考	対面授業、対面定期試験を予定している。							

授業の計画

1	「ブラック企業と『資本論』(1)	1、「若者絡め取り」メカニズムとマルクス「相対的過剰人口論」
2	「ブラック企業と『資本論』(2)	2、「固定残業代」制度とマルクス「時間賃金論」 3、「無限の成果要求」とマルクス「出来高賃金論」
3	貧困、生活保護叩きと『資本論』(1)	1、貧困ゆえの「生活保護バッシング」 2、非正規労働の貧困。有期労働契約法改悪 3、電機正社員13万人大リストラという貧困
4	貧困、生活保護叩きと『資本論』(2)	4、「3つの貧困」を結ぶメカニズムと資本主義的格差 5、マルクス「資本の蓄積に照応する貧困の蓄積」論
5	「アベノミクスの貧困と戦争への道(1)	1、貧困の特徴 生活苦、非正規増大、正規待遇低下 2、格差の特徴 大企業・富裕層の高収益と労働者の低賃金 3、働く貧困と社会保障削減
6	「アベノミクスの貧困と戦争への道(2)	4、矛盾の反動的打開 多国籍企業化と安全保障政策の転換 5、『資本論草稿』における世界市場開拓論。恐慌と世界市場論。
7	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(1)	1、アベノミクスの不況脱却策と現実 2、アベノミクス「3本の矢」と金融バブルの形成
8	アベノミクス・バブルの形成と崩壊(2)	3、バブルとは何か - マルクス「資本の過多と過剰生産の相互促進論」
9	アベノミクスの失敗と暴走(1)	1、繰り返される「異次元の金融緩和」の失敗 2、「金融緩和」から「成長戦略」待望への暴走
10	アベノミクスの失敗と暴走(2)	3、アベノミクス・バブル待望論と『資本論』第二部「バブルの論理」
11	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(1)	1、「成長戦略」の欺瞞性 2、「欺瞞性」の原因。株価・株主資本主義の台頭 3、アベノミクス「欺瞞性」の限界
12	アベノミクス成長戦略の欺瞞性(2)	4、「株主資本主義」の本質。『資本論』第三部「バブルの論理」と「株式資本」論。
13	リーマン・ショック。発達したバブル(1)	1、ITバブル崩壊、2001年不況と住宅関連バブル 2、米国「新型」住宅関連バブル。そのメカニズム
14	リーマン・ショック。発達したバブル(2)	3、米国住宅関連バブルの崩壊。そのメカニズム
15	リーマン・ショック。発達したバブル(3)	4、住宅関連バブル崩壊と「過剰生産恐慌」 マルクス「金融危機と結合した過剰生産恐慌」論

授業科目名	経済統計 < 経済統計 >	担当教員名	小柳 真二				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生

授業概要	経済統計を使いこなすには、どのような統計データがあるか、どのようにして作成されたものであるかを理解した上で適切なデータの選択や、効率的な収集を行う必要がある。本講義では、経済統計への向き合い方や、個々の統計の特性について解説を行い、また実際の分析事例を示す。特に、基本的な統計処理のほか、人口、景気動向、産業に関する統計データを広範に取り上げて解説する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 統計データの探索・収集・加工・可視化など基礎的な処理方法を習得する。 世の中にどのような統計データがあるか知識を広め、分析のレパートリーを増やす。 各種統計の利用シーンや有用性に加え、特有のクセや限界を理解する。 統計データを読み解く力を身につける。 									
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考							
	平常点									
	小テスト	40	各回の講義後、理解度をチェックするための小テストを課す							
	レポート	60	経済統計を用いた分析を実践するレポートを課す							
	定期試験									
	その他									
事前・事後学習	<p>【事前】新聞・テレビ等の経済指標に関する報道で、どのような経済指標が、どのような場面・目的で利用されているか日常的にチェックしてください。</p> <p>【事後】講義で取り上げる統計データに自らアクセスし、どのようなデータがあり、どのような分析が可能であるか確認してください。</p>									
事前受講を推奨する科目										
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年						
	『使用しない』									
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年						
	『経済統計の活用と論点(第3版)』	梅田雅信・宇都宮淨人	東洋経済新報社	2009						
	『経済統計の実際』	日本統計学会編	東京図書	2022						
備考										

授業の計画

1	イントロダクション	講義の方法、内容、スケジュール等について
2	統計分析の手法（1）	代表値、ばらつき、相関など
3	統計分析の手法（2）	時系列分析、季節調整など
4	人口に関する統計	国勢調査、人口動態統計、住民基本台帳人口、将来人口推計など
5	国民経済計算・国際収支	国内総生産、県内総生産、国際収支統計など
6	産業連関表	産業連関表の見方、産業連関表による分析、経済波及効果など
7	景気動向全般に関する指標	景気動向指数、景気ウォッチャー調査、日銀短観、RDEIなど
8	雇用に関する統計	労働力調査、毎月勤労統計、賃金構造基本統計調査など
9	消費・物価に関する統計	家計調査、消費動向調査、消費者物価指数など
10	所得・家計に関する統計	全国家計構造調査、住宅・土地統計調査など
11	企業財務・投資に関する統計	法人企業統計、日銀短観、建築着工統計、機械受注統計など
12	事業所・企業の構造に関する統計	事業所・企業統計、経済センサス、経済構造実態調査など
13	個別産業に関する統計（1）	製造業・商業・サービス業に関する統計
14	個別産業に関する統計（2）	観光に関する統計
15	全体のまとめ	講義の振り返り、レポートに関する指示など

授業科目名	金融論	担当教員名	鶴沢 真					
科目ナンバリング			開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生
授業概要	<p>・わが国の金融システムは、高度経済成長期における銀行中心の間接金融システムから、90年代後半のバブル崩壊後の銀行危機、2008年のリーマンショックに端を発する世界的な金融危機を経て、直接金融を中心とするシステムへ変わりつつあり、金融機関に求められる機能も大きく変化している。高齢化や人口減少を背景とした低成長のなかで企業の資金需要は低調な一方、家計においては貯蓄から投資に向けた政策、キャッシュレス化が推進されている。グローバル化の流れに加え、中央銀行においてもゼロ金利政策が継続される等、金融機関にとっての外部環境も変化している</p> <p>・金融の基本的機能、金融商品、金融市場に関して、出来る限り金融ビジネスにおける実務に役立つよう具体的に講義していく。それぞれのテーマに応じた実際のトピックスや歴史上の事件等を提示し、実際の対応を紹介する。受講する学生は自らの考え方を整理し、他人へわかりやすい説明ができるようになることが求められる</p>							
到達目標	<p>・金融の基本的機能、金融市場や金融商品の仕組みを理解し、わかりやすく説明できる</p> <p>・金融に関連した現実の課題や、最近の動向について自分なりの意見を持てる</p> <p>・基本的な金融商品の仕組みを理解し、自ら購入することも検討できる</p>							
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考					
	平常点	20						
	小テスト	40						
	レポート							
	定期試験	40						
	その他							
事前・事後学習	<p>・教科書である「テキスト金融論 第2版」第1章から第15章にしたがって講義を進めます</p> <p>・Google Classroomを利用し、講義資料をアップしますので、予習・復習を行って下さい</p>							
事前受講を推奨する科目								
教科書	書籍名	著者		出版社	出版年			
	『テキスト金融論 第2版』	堀江康熙・有岡律子 ・森祐司		新世社	2021			
参考書	書籍名	著者		出版社	出版年			
	『下関市立大学 学びのハンドブック』							
備考	<p>・この授業は、金融機関での実務経験のある教員が行う授業です。</p>							

授業の計画

1	金融の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション（金融論で学ぶこと） ・金融の基本的機能
2	金融機関の機能	<ul style="list-style-type: none"> ・金融仲介と資産変換機能 ・情報生産機能
3	通貨の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・通貨とその機能 ・信用創造 ・キャッシュレス決済
4	資金の決済	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行振込と決済 ・中央銀行の役割
5	金融商品の価格	<ul style="list-style-type: none"> ・金利の役割 ・リスク、価格と取引行動
6	金融資産のリターンとリスク（上）	<ul style="list-style-type: none"> ・不確実性の存在と選好 ・リスク回避型投資家の行動
7	金融資産のリターンとリスク（下）	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの選択 ・最適ポートフォリオとCAPM
8	金融取引と金融システム 市場取引型市場	<ul style="list-style-type: none"> ・金融市場の機能とタイプ ・金融取引の類型 ・金融市场の類型化
9	債券市場の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・債券市場と価格 ・債券利回りと変動
10	株式市場の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・株式市場と株式 ・株価の変動と投資の尺度
11	証券化商品市場	<ul style="list-style-type: none"> ・証券化商品 ・投資信託
12	金融派生商品市場	<ul style="list-style-type: none"> ・先物市場と先物 ・先物価格の決定
13	金融派生商品市場	<ul style="list-style-type: none"> ・オプション市場、コールとプット ・プレミアムの決定
14	金融派生商品市場	<ul style="list-style-type: none"> ・通貨スワップと金利スワップ ・クレジット・デリバティブ
15	外国為替市場	<ul style="list-style-type: none"> ・国際金融取引 ・外国為替市場と相場

授業科目名	財政学	担当教員名	嶋田 崇治			
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次

授業概要	財政学とは、国家による貨幣を通じた統治のメカニズムを解明する学問である。無産国家が統治活動を行うためには、国民の同意を得て、税を強制的に徴収する必要がある。財政学Iでは、この統治活動に必要な歳出・歳入を決定する民主的な手続きとしての予算、理念としての財政民主主義、基準となる諸原則を学び、歴史とともに変遷する実態との距離を把握することを通じて、現実の財政制度の問題点を捉える視点を提示する。以上のような視点を身に付けるためには、財政に関する基礎知識を十分に学ぶ必要がある。とりわけ本講義では予算制度・税制を重点的に取扱い、日本財政の現状・特徴・課題を把握するための基礎作りを行う。					
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。予算・税制を中心に財政の基礎知識を習得する 日本財政の現状・特徴・課題を十分に理解する。					
評価の方法と基準	評価方法	割合(%)	評価基準・その他備考			
	平常点	20	課題の提出			
	小テスト					
	レポート					
	定期試験	80	期末テスト			
	その他					
事前・事後学習	事前学習としては以下で指定する参考書を読むことを推奨する。これは財政学Iの大枠を理解することに役立つ。事後学習としては、講義に関連した課題を複数回課す。					
事前受講を推奨する科目						
教科書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『教科書は指定しない』					
参考書	書籍名	著者	出版社	出版年		
	『財政学の扉をひらく』	高端正幸・佐藤滋	有斐閣	2020		
	『幸福の増税論』	井手英策	岩波書店	2018		
備考	形態：対面 状況の変化に応じて、いずれも変更の可能性がある 期末テスト未受験あるいはアンウンスされた回数以上の欠席が確認された場合は失格とする					

授業の計画

1	ガイダンス & 講演	講義の進め方、評価方法の説明
2	財政とは何か1	財政、財政学とは何か、日本が直面する社会問題と財政
3	財政とは何か2	日本が直面する社会問題と財政
4	財政とは何か3	日本が直面する社会問題と財政
5	財政の基礎1	財政の三機能、政府間財政関係、歳出歳入構造
6	財政の基礎2	集権的分散システム、日本の財政制度と量出制入
7	予算1	財政民主主義
8	予算2	予算原則と実態の距離
9	予算3	予算決定過程
10	予算4	大蔵省統制、地方分権化
11	租税1	租税の特質、租税原則
12	租税2	租税の特質、租税原則
13	租税3	租税原則、租税の分類
14	租税4	租税原則、租税観
15	まとめ	まとめ

授業科目名	経済地理学	担当教員名	小柳 真二				
科目ナンバリング		開講学期	春学期	単位数	2単位	配当年次	2年生
授業概要	本講義では、経済地理学が研究対象とする諸分野のなかで、主に産業の立地や発展に関する内容を論じる。企業は、国民経済や地域経済を構成する存在であると同時に、これらの経済に依存する存在でもあり、企業の立地や産業の成長（および衰退）をとらえる上ではこうした相互作用への理解が重要である。本講義の進め方としては、企業の立地行動を規定する諸要因への知識を深めることを狙いに、基礎理論である立地論や、産業集積に関する理論を解説しつつ、隨時各地の事例（既存研究や統計データ等）を取り上げることとする。						
到達目標	・日々の経済的・社会的事象を、地域の視点や、経済地理学の枠組みからとらえることができるようになる。 ・産業の立地の背景にある論理を理解する。						
評価の方法と基準	評価方法	割合（%）	評価基準・その他備考				
	平常点						
	小テスト	40	各回の講義後、理解度をチェックするための小テストを課す				
	レポート						
	定期試験	60					
	その他						
事前・事後学習	講義資料では、具体的データを提示しますので、自分自身でデータを見て解釈してください。 また講義中に指示する参考資料に目を通してください。 日頃から、地域経済や、企業の立地（設備投資等）に関するニュースにアンテナを立て、チェックするようにしてください。						
事前受講を推奨する科目							
教科書	書籍名		著者	出版社	出版年		
	『使用しない』						
参考書	書籍名		著者	出版社	出版年		
	『現代の立地論』		松原宏編著	古今書院	2013		
	『経済地理学への招待』		伊藤達也・小田宏信 ・加藤幸治編著	ミネルヴァ書房	2020		
備考	秋学期開講の「経済地理学」では、都市に主眼をおいて講義をおこなうため、併せて受講すると理解が深まります。						

授業の計画

1	イントロダクション	経済地理学とは何か、経済地理学のアプローチ、講義概要
2	農業の立地	チューネンの孤立国モデル、現代の農業立地
3	工業の立地（1）	ウェーバーの工業立地論
4	工業の立地（2）	現代日本の工業立地、研究開発機能の立地
5	商業の立地	クリスタラーの中心地理論、現代日本の商業立地
6	オフィスの立地	オフィスの立地、都市システム
7	対事業所サービス業の立地	情報通信業・広告業など対事業所サービス業の立地
8	対個人サービス業の立地	飲食業・医療福祉など対個人サービス業の立地
9	産業立地の事例	九州・中国地方の産業分析
10	産業集積の理論と事例（1）	産業集積論の系譜
11	産業集積の理論と事例（2）	都市集積論、進化経済地理学
12	産業集積をめぐる政策	クラスター政策など、日本における産業集積政策
13	イノベーションの地理学	知識、ネットワーク、近接性に関する理論
14	産学連携の空間特性	日本における産学連携イノベーションの空間特性
15	まとめ	講義の振り返り、要点まとめ